

日時 令和7年

7月5日(土)

14:00 ~ 16:00
(開場 13:30 ~)

会場

米子市淀江文化センター
イベントホール
米子市淀江町西原708-4

インドと 日本の深い関係

定員
100名

参加費
無料

※要事前申込

南インド タンジャーヴール
ブリハッディーシュワラ寺院

講師 加藤隆宏氏 東京大学大学院人文社会系研究科・教授

専門はインド哲学、サンスクリット文献学。
2003年から2005年までインド・ブネー大学サンスクリット
学高等研究所に留学。
2022年から2024年まで、東京大学インド事務所長を務め、
日印学術交流を推進する活動を行っている。
訳書『インド哲学入門』ミネルヴァ書房、2023年。



講演概要

インドと聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？ガンジス川で沐浴をする人々、
口髭を蓄えた修行者が森の奥で瞑想にふける様子、タージマハルやアジャンタ・エロー
ラ遺跡などの世界遺産の数々。色鮮やかな民族衣装、スパイスの香り豊かなインド料理、
アーユルヴェーダやヨーガといった健康維持法など。
インドは遠い異国と思われがちですが、実は仏教を通じて多くの文化や思想が日本に伝
わっています。本講演では、私たちの身近に潜むインド的要素を掘り起こし、インドと
日本の深いつながりを紐解いていきます。

申込み方法 ※6/1(土)9時から先着申込受付開始

電話・FAX・メール等で

- ① 代表者お名前
- ② 代表者ご連絡先電話番号
- ③ 参加希望人数(代表者含む) を添えて
米子市淀江文化センターにお申込みください。

- 電話 0859-39-4050
- FAX 0859-39-4051
- Eメール saname@yonagobunka.net
- メール申込フォーム QRコード

< 開館時間 > 9:00 ~ 22:00

< 休館日 > 毎週水曜日



東大人文・淀江プロジェクトとは

1901年日本の考古学・人類学の草分けと評される坪井正五郎氏(東京帝国大学教授)は淀江町を訪ね、本州唯一の石馬に注目しました。
また、長者ヶ平から発見された金銅製冠は、今も東京大学に保管されています。そのような縁もあって、東京大学文学部に、令和4年から当
5年間の予定で立ち上がった淀江研究のプロジェクトです。
令和4年7月にスタートアップ・シンポジウム、令和6年1月に第2回シンポジウム、令和6年11月に第3回シンポジウム、令和4年11月と
令和5年1月、令和6年10月に市民講座、令和5年3月と令和7年3月に特別講座を実施しました。

主催

東大人文・淀江プロジェクト

[東大問い合わせ先] プロジェクト室(佐藤) ☎03-5841-4046 hsato@l.u-tokyo.ac.jp
事務担当(瀧口) ☎03-5841-4028

共催

米子市、一般財団法人 米子市文化財団[米子市淀江文化センター]

後援

鳥取県、NPO 法人 むきばんだ応援団、「古代淀江ロマン遺跡回廊」推進会議